



TITLE:

東亞天文協會觀測部月報

AUTHOR(S):

---

CITATION:

東亞天文協會觀測部月報. 天界 1939, 20(224): 53-58

ISSUE DATE:

1939-11-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/167904>

RIGHT:

# 観測部月報

★

東亞天文協會

## ★ 流星課だより (98)

いよいよ昭和14年も最後の十二月になつた。云ふまでもなく十二月には双子流星群が毎年豊富な出現を見せる。本年は最盛期の12~14日頃が新月の直後で月の邪魔全くなく、輻射點が東天に昇る20時頃から夜明まで充分に観測出来る筈である。明るい流星も屢々見られるので寫眞觀測も有望である。この流星群の先驅は早くも十二月初に見られるが、10日頃までは割合少く、其後漸次其の數を増し、13~14日頃に極大となる。其後急激に減少し16~17日以後は出現を認めることは少い。

この外上旬(5日前後)に大熊座 $\mu$ 流星群、上中旬に双子座 $\beta$ 流星群が認められる。

×            ×            ×            ×            ×

十月のオリオン流星群の観測として筆者の得た結果を示す。昨年に劣らぬ出現であつたが、强光のものはやゝ少かつたのではないかと思ふ。極大は22日曉にあつたらしい。

Date	Int.	Meteors	Orionids	H. M.	F.	Corrected H. M.
21日	30	17個	11個	22.0	0.8	27.6
22	65	57	38	35.0	0.9	39.0
23	40	29	18	27.0	0.9	30.0
24	15	4	3	12.0	0.6	20.0

22日朝4時13分この群に屬する負5等の大流星があつた(ヒドラ座の $\alpha$ 星附近に出現)。痕は約1分間も留つてゐた。(小槇孝二郎)

## ★ 太陽課 (1939年10月)

報告者 14名(前月より1名増)

天候 例年に比較して甚だ曇雨天が多く、しかも全國的であつたためか(特に前半月)全員で補つても、5, 9, 10, 12, 16, 25, 26日の7日が缺測であつた。不成績を甚だ残念に思ふ。筆者の推定に依る観測可能日19日も、天候不良を物語つて居る。

概況 各人の観測日が、月の半數以上であつたのは僅かに1名であつた事か

ら見ても、各人の値が十分に信用出来兼ねるが、先づ前月に比べて5~10%の減少ではないかと思はれる。中でも上旬は相當な數字に達したらしく、上旬に比較的觀測の多かつた坂上、阿部兩氏のがむしろ増加して居るのは、其の邊の影響だらう。

肉眼的黒點	坂上	津留	島崎	木邊	正村	すばる會	計
觀測日數	12	7	12	8	7	10	56
出現日數	4	2	9	5	4	2	26
黒點群數	2	3	5?	3	5	1	5
黒點群累計數	4	3	11	6	8	2	34

各人とも觀測日數が尠ないが、平均に依れば出現比0.46であつて、前月とは可なり淋しくなつた。猶全員で認められた5群中の2群は前月來のものであつたから、新しく本月に見られたものは正味3群である。

南半兩半球の比較	津留	木邊	山田	杳掛	すばる會	阿部
南	50.0	57.3	47	62.3	67.7	59.1
北	55.4	41.0	40	48.4	43.6	48.1

津留、山田兩氏のは觀測日數が僅かであつたから、其れを除いて平均すれば南1.00に對し北0.72即ち南58%、北42%であつて、前月よりは平分に近づいて來た。猶ほ岡村氏よりも報告があつたが、次回からは各半球に平均値の報告を乞ふ。

**其他** 杳掛氏よりは各黒點群の概略緯度、すばる會の堀田氏よりは一部黒點群の緯度を投影を利用して報告。津留氏よりはスケッチ2葉の報告を受けた。而して本月には、著しい高緯度の黒點群は出現しなかつた様である。

**課報** 應召中であつた本田實氏が今度除隊されたので近く同氏が瀬戸で觀測を開始される。其れに従つて明年度の一月分の報告からは、瀬戸へ送付する事に願ひたいが、本年度分は今迄通りである。

猶ほ本月の相對數表欄に方法と云ふ項を入れ、投影、直視の兩法をば、夫々投、直と累示して置いた。

## ★ 遊星面課月報 (1939年10月)

前には都合に依り報告中に休載したが、其の間、京都府立一中の樋上、東京市立一中、中野繁、青木章、松本義一、山根平三、津留繁雄、中平良之介等の諸氏から有力な見取圖を多數受領した事を喜んで御報告します。

10月31日現在の見取圖受領總數は322枚で、其内譯は下記の如くである。(敬稱略、見取圖數順位)

青木(32)、伊達(30)、津留(29)、樋上(28)、岡村(24)、西森(23)、降旗(22)、坂上(21)、中野繁(18)、山根(16)、東京市立一中(11)、中平(11)、木邊(10)、

## 黑點相對數報告 (1939年10月)

觀測者(觀測地)	坂上 務(福岡市大名町)	津留 繁雄(熊本市本莊町)	草場 修(廣島縣瀬戸村)	岡村 一郎(大阪市明星商榮)	木邊 成脣(滋賀縣中里村)	正村 一忠(岐阜市溝旗町)	山田 達雄(愛知縣犬山町)	大石 辰次(靜岡縣吉永村)	杏掛 七二(長野縣青木村)	すばる會(橫濱市)	小石久太郎(東京市神田區)	阿部 正明(東京市池袋)	片山 八郎(東京市立一中)
口徑 mm	40	130	100	75	75	25	69	55	102	50	58	28	50
倍率	32	45	45	54	60	48	44	64	75	50	64	45	32
方法	投	投	直	直	直	直	直投	直	直		直	投	投
1	151	156	191	缺	163	147	缺	143	165	180	172	144	161
2	154	曇	302	148	157	134	雨	155	163	210	158	153	曇
3	曇	雨	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	144	曇
4	114	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
5	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
6	91	曇	104	87	缺	曇	缺	71	104	曇	曇	缺	缺
7	87	曇	曇	曇	缺	曇	曇	76	曇	曇	曇	127	曇
8	曇	曇	曇	曇	缺	曇	曇	曇	曇	曇	曇	108	曇
9	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
10	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
11	雨	曇	雨	曇	曇	曇	曇	曇	曇	70	雨	曇	曇
12	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	缺	曇	曇	曇
13	曇	曇	121	117	缺	48	缺	53	132	97	112	96	缺
14	曇	70	114	91	75	40	68	67	86	84	64	80	83
15	曇	雨	雨	缺	曇	曇	曇	67	曇	69	87	81	缺
16	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	雨	雨	雨
17	旅	曇	137	雨	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	74
18	93	108	97	142	100	63	缺	62	109	曇	缺	71	93
19	曇	曇	曇	曇	曇	雨	雨	78	94	曇	曇	缺	曇
20	131	108	曇	123	101	81	105	96	缺	105	122	110	缺
21	134	85	114	95	82	曇	缺	86	16	曇	曇	缺	曇
22	108	缺	142	104	83	曇	曇	76	98	曇	曇	缺	曇
23	曇	曇	缺	116	103	曇	曇	84	缺	曇	曇	缺	曇
24	97	曇	曇	缺	94	曇	曇	86	108	曇	雨	曇	曇
25	雨	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
26	曇	曇	曇	雨	曇	曇	曇	曇	曇	136	缺	曇	曇
27	曇	曇	曇	99	98	曇	曇	曇	曇	107	曇	129	89
28	160	曇	曇	83	100	缺	曇	67	81	曇	曇	105	87
29	77	曇	曇	108	70	缺	曇	88	95	曇	94	94	缺
30	曇	曇	曇	129	91	曇	曇	93	缺	曇	曇	79	曇
31	曇	曇	曇	104	94	曇	曇	88	118	91	曇	87	曇
觀測 日數	12	5	9	14	15	7	4	18	13	10	7	15	7
一日 平均	111	—	—	111	98	86	—	85	111	110	116	107	96
前月 平均	110	123	—	140	110	77	117	93	143	131	108	105	118

松本(8), 中野藤夫, 大石, 北野(各6), 大口(5), 西尾, 田村, 竹内(各3), 寺澤, 中窪(各2), 山形, 枝川, 堀田(各1)。

以上の如くで、1937年度に比し、斷然卓越してゐる。只、火星の高度が低かつたのと、表面の模様が非常に淡かつたのとは、張り切つた各觀測者に脾肉の嘆を感じしめたが、しかし、星の大きい視直徑は、充分吾々を楽しませてくれた。火星觀測のパイオニアたる渡邊恒夫、前田靜雄兩氏を聖戰の野に送つた事は、本年度火星觀測陣に掩ひ切れぬ寂しさを漂はせたが、有力な新觀測者の進出によつて、充分これを補ひ得る事が出来たと確信してゐる。

10月に入つて自分が本職(商業)の方に全ての時間を奪はれたため、一度も火星を見ずに終つた事は、自分としても頗る遺憾と思ふと共に、愧ぢ入る次第であります。

見取圖に表はれた表面の狀況についての詳細は、一通り整理の上、天界近號誌上に發表するとして、本年度の火星大接近に當り、5月初より10月終迄の6ヶ月間、火星觀測遂行に御協力下さつた協同觀測者各位に對し、深甚の謝意を致すと共に、貴重な記録を、豫想以上に收穫出来た事を諸氏と共に慶賀致し度いと存じます。(10月31日記)

火星を送ると共に、木星土星が相次いで夜のステージにデビューしてゐます。木星見取圖用紙が新しく造られましたから御希望の方は、送料(30枚迄3錢の割で)添付の上、兵庫縣川邊郡川西局區内雲雀丘 伊達英太郎宛申し込まれ度い。木星見取圖用紙に記入上の注意を略記しますと、年、月、日、時刻等は火星同様(但し木星に於ては、經度決定時刻は秒位迄記入、且、可及的正確たる事を望む)で、中央經度の欄が  $\omega^1$  と  $\omega^2$  の2欄になつてゐるが、これはそれぞれシステム I 及 II の中央經度で、算出法は天界第 221 號參照の事。備考欄は、各帶縞の欄別にしてありますから、それぞれの帶や縞の、濃さ、太さ、色彩、ディテール、特異現象等につき詳記され度い。衛星等については第4頁を使用の事。  
(以上、伊達)

## ★ 彗 星 課

急報で明らかな如く、又々ジャコビ = 星とフレンド星とが見つかつて、今年初以來の彗星は合計12個となつた。ジャコビ = 彗星は來年近日點に近づくものであるが、発見はもつと早く成功するだらうと、期待されてゐたもので、発見者は熟練なヴンピ教授であつた。フレンド彗星は十一月4日米國で発見され、少し後れて同13日に倉敷の岡林氏が見つけ、之れを木邊氏等が確かめた。日々の運動は非常に速く、又、經路の模様から見ると、太陽にも近いらしいが、今は未だ軌道の要素が正確には分らない。今後の急報を見られよ。ちなみに、今年初め以來の彗星一覽表は下記の通り:

順 序	發 見 者	彗 星 の 名	發見の日
1939 a	コジク氏, ヘルテヤ氏	(新)	一月17日
1939 b	グ イ サ ラ 氏	(新)	二月 8 日
1939 c	ジ エ フ ア ス 氏	ボン, キンネケ	三月17日
1939 d	ハセル氏, 岡 林 氏 等	(新)	四月15日
1939 e	ワンピースブルク氏	コ ブ	四月22日
1939 f	ジ ヤ ク ソ ン 氏	ジダスマン, ワハマン	六月12日
1939 g	ジエフアス氏 等	第二ブルクス	六月17日
1939 h	リ ゴ レ ー 氏	(新)	七月28日
1939 i	カ ミ ン ス キ 氏	(新)	七月24日
1939 j	ジ エ フ ア ス 氏	タ ト ル	八月12日
1939 k	ワンピースブルク氏	ジヤコピニ	十月15日
1939 l	フレンド氏, 岡 林 氏	(新)	十一月 4 日

## 變光星觀測結果概況 (4) Results of Observations of Variables.

R Tri (Mira 型)	Z UMa(RV Tau 型)	48.0 8.1 "	9424.0 8.4 "
1939 I~III (Est 14)	1939 III~VI (Est 9)	49.0 8.3 "	23.0 8.4 "
242	242	51.0 8.3 "	32.1 8.1 "
9300.9 10.4 Si	9337.9 7.5 Ob	9433.1 9.1 Mi	33.0 8.1 "
04.9 10.5 "	9401.0 8.1 "	SS Vir (Mira 型)	34.0 8.3 Ob
11.0 10.8 "	03.0 8.1 "	1939 V (Est 4)	V Boo (Mira 型)
16.9 11.2 "	04.0 7.7 "	242	1939 III (Est 4)
18.9 11.2 "	19.0 8.6 "	9383.0 6.9 Si	242
22.9 11.1 "	20.0 8.6 "	99.0 7.6 "	9348.1 7.7 Vd
31.0 11.2 "	24.0 8.7 "	9401.0 7.6 "	49.1 7.7 "
31.9 11.3 "	29.0 8.7 "	03.0 7.3 "	51.1 7.5 "
40.9 11.4 "	34.0 8.7 "	SW Vir (Irr.)	64.1 7.8 "
S UMa (Mira 型)	RS UMa (Mira 型)	1939 IV~VI (Est 17)	V Oph (Mira 型)
1939 III (Est 3)	1939 II~IV (Est 4)	242	1939 V~VI (Est 5)
242	242	9364.0 8.3 Ob	242
9330.0 7.5 Ob	9310.0 < 10.9 Ot	65.0 8.3 "	9401.1 9.7 Si
32.0 7.5 "	21.0 < 11.3 "	98.0 8.2 "	19.0 10.1 Ob
38.0 9.4 "	38.0 < 11.8 Ob	99.0 8.3 "	20.0 9.9 "
	65.0 11.2 "	99.0 8.2 Si	29.0 10.0 "
T UMa (Mira 型)	R Vir (Mira 型)	9400.0 8.4 Ob	34.0 10.0 "
1939 II~IV (Est 3)	1939 III~VI (Est 7)	01.0 8.4 "	SS Sco (Irr.)
242	242	01.0 8.5 Si	(Est 3)
9310.1 < 10.4 Ot	9339.1 7.8 Vd	03.0 8.3 Ob	都合により發表延期
21.0 < 10.4 "	42.0 7.8 "	03.0 8.5 Si	Published on the
65.0 < 10.8 Ob	46.0 7.8 "	19.0 8.3 Ob	repost of next time.
		20.0 8.4 "	

## 訂 正 (Corrections)

觀測者表 List of Observers.			
項 (term)	行 (line)	正 (correct)	誤 (erroneous)
觀測者 Observer	8	坂上 務 T. Sakanoue	坂上 務 T. Sakagami
略號 Abbreviation	8	Sn	Sg
星數 Stars	9	4	3

觀測星一覽表 List of Stars Observed.			
觀測者 Observer	8列目	Sn	Sg
星名 Star	6	RS Cnc	RS Can
〃	11	$\alpha$ Cet	O. Cet
觀測者 Ss Observed by Ss	21 (DQ Her)	—	3
〃	34 ( $\alpha$ Ori)	5	—

觀測結果概況 Results of Observation of Variables  
( ) 内は誤り mis-print

R And			T Cet		
U. T	Mg.	Obs.	9269.9 (65.9)	6.5	Yd
242			$\alpha$ Cet		
9273.9	8.0 (7.9)	Yd	9275.9 (75.0)	7.7	Si
77.9	7.6 (7.5)	Ss	S CMi		
			9276.1 (76.0)	8.8	Sn
RW Aur			R CrB		
9322.95 (.92)	11.1	Kb	9394.0 (94.1)	8.9	Kb
45.94	10.8	Kk (Kb)	9403.0	9.1 (9.0)	Ob
59.95 (57.95)	10.8 (11.8)	Kb	24.0	9.1 (9.0)	Ob
62.95 (63.95)	11.0	Ob	TW Gem (TW Gen)		
AG Aur (Aqr) (RV Tau 型 (星))			DQ Her (DO Her)		
9362.0	10.0 ( )	Ob	SU Tau		
63.0	10.0 ( )	〃	9283.9	10.0 : (10.0)	Kz
64.0	9.6 ( )	〃	9348.0	9.7	Kz (Kk)
65.0	10.0 ( )	〃	68.0	9.5	Kb (〃)
99.0	11.0 ( )	〃	68.0	9.6	Kz (Kb)
9400.0	11.0 ( )	〃			
1.0	10.7 ( )	〃			
3.0	11.0 ( )	〃			
4.0	11.0 ( )	%			

倉敷天文臺 (Kurasiki Observatory) { 木 邊 成 磨 S. Kibe  
岡 林 滋 樹 S. Okabayashi